

パプアニューギニア，セピック地方ニューラ社会 における仮面に関する人類学的研究

——仮面の物質的側面に注目して

坂本 一真

文化人類学・宗教学・日本思想史専門 前期課程2年

0. はじめに

本研究の目的は、パプアニューギニア，セピック地方ニューラ社会コロゴ村における現地調査を通して仮面に関する民族誌的第一次資料を提示することである。そしてこうした一次資料を背景に、現代のコロゴの人びとが仮面を再製作する動機を仮面の物質的側面から考察することである。

当該地域におけるこれまでの仮面の研究は、おもに1970年代のものであり、近年で報告されている事例はほぼない。そこで本調査報告ではこうした一次資料の提示を行うことがおもな目的となるが、併せて一分析も行っている。

パプアニューギニアが位置するオセアニアは、アフリカと並んで民族美術の宝庫だといわれる。特にメラネシア地域に位置するニューギニア島は、川と高地、密林などに阻まれていて、ヨーロッパに接したアフリカなどに比して、西欧の宗教、文化に接する時期が比較的近年であった地域である。人びとはその原始性への郷愁、美術作品の外見的な表現様式、造形の発想法などを求めて、オセアニア地域（特にメラネシア）に民族美術の宝庫として高く注目を集めた。こうした背景のなかで仮面も民族美術のひとつとして高く評価されたもののひとつである。

そのなかでもパプアニューギニア，セピック地方の民族芸術は、その多彩な美術様式からオセアニア美術のなかでも重要な地域のひとつとされる。特に成年式を終えた男性のみが立ち入る精霊小屋（ハウス・タンバラン）では、仮面も含め多種多彩な彫像、楽器で溢れている。

1. 調査方法

調査は主に結社への参与観察と聞き取りを行った。仮面については、形状の測定ならびに結社成員への聞き取りを密にした。内容は仮面が表象するもの、仮面

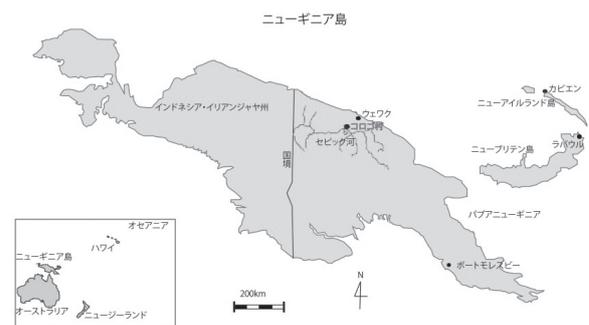
に付与される意味、使用方法を中心に説明を求めた。また仮面が使用される場面では、観客側の人々の反応も捉えるために映像記録を収集した。これらの資料は後日結社成員の補足説明を受け確認作業を行った。

なお、調査言語はトックピシンを基本として使用しているが、仮面に関する資料は現地語での単語も合わせて用いている。調査期間は2011年8月9日から9月16日で、東セピック州コロゴ村での住み込み調査である。

2. 調査地概要

2-1. パプアニューギニア独立国 (Independent State of Papua New Guinea)

パプアニューギニア独立国は、ニューギニア島の東半部、ビスマルク諸島、ブーゲンビル島および周辺の島々からなる（地図①）。国内は20州（19州と首都特別区）で構成され、首都はポートモレスビーである。面積は46万2000平方キロメートルで、日本の約1.25倍である。言語は、公用語である英語の他、共通語としてピジン英語、モツ語等を使用する。人口は、688万8千人（2011年現在の外務省データ（URL）より）で、国民は大きくメラネシア系とパプア系に分類される。しかし現在、両者の混血が著しく明確な出自の区別は困難である。民族集団は800を超えるといわれている。

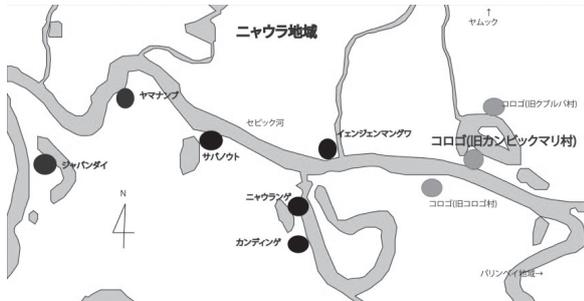


地図①（筆者作成）

2-2. コロゴ村

ニューラ *nyaura* と自称する民族集団である。コロゴ村のほか6つの村がある(地図②)。そのほかイアトムル *iatmul* と他称される場合がある。ただしその場合ニューラ社会だけでなく、ニューラ社会東側のパリンベイ社会も指す。宗教はおもにキリスト教で、その他伝統宗教が根強く残る。生業は農耕、漁労、食事は魚、サゴデンプン(サクサク *saksak*)が中心となる。居住人口は700人程度であり、クラン(以下、氏族と記す)をもとにした父系制社会・父方居住である。

またニューラ地域一帯は、精霊小屋(トックピシン語: ハウス・タンバラン *haustambaran*) (ニューラ語: *geko* ゲコ) と呼ばれる集会所をもつ。ここはあらゆる祭祀の中心となり、内部は屋根、破風、柱、壁とほとんどあらゆる部分が念入りに彫刻、彩色されている。



地図② (筆者作成)

3. コロゴの仮面

コロゴ村の人びとは、3種類の仮面をもつ。マイ仮面 *mai*, アワン仮面 *awan*, ババ仮面 *bapa* である。し

かしババ仮面については現在では製作、使用されていない。またアワン仮面については、ドイツの国立博物館に売却してしまったようで存在せず、現在新しいアワン仮面を製作中である。そこで以下では、マイ仮面に限定して記述を行う。

3-1. マイ仮面概略

マイ *mai* とは祖霊ワガンが実体化して祖先となったものであり、仮面そのものである。つまりマイとは、あくまで祖霊ワガンが実体化したときの形態的な分類であり鼻が長く、その先端に各氏族のトーテム動物が現され、長円の顔をしたものである。マイ仮面は氏族ごとに所有され、各氏族はこうしたマイ仮面に祖先としての固有名を与えている。仮面を作るとき、各氏族の長老が竹の笛 *maikundi* を使って仮面に固有名を吹きかけなければ仮面は祖先とはならない。

現在コロゴ村では、使用されているマイ仮面は6つである(現在2つは製作中)。基本的に上位の4つの氏族ごとにそれぞれ2つの兄と弟のマイ仮面を所有する¹⁾。聞き取りによれば、1950年代頃まで兄弟のマイ仮面の他に、姉妹のマイ仮面も保有し使用していたようである。しかし現在ではほとんど所有していないため、姉妹のマイ仮面に関する話を聞くことはできない。マイ仮面の使用者に関しては、さまざまな語りがあり、詳しいことはわかっていない。聞き取りからすると、現在使用者は特定の氏族に限らず柔軟なようだ。かつては成年式時の氏族の相方同士でマイ仮面を交換して使用していたといわれている。また氏族を問わず母方の甥(ラウア *laua*)に使用させるともいわ

表1

所有氏族	種類	名前(固有名)	兄弟関係	所有者の氏族	製作者	制作年代	製作地	使用儀礼
ニューラニョング <i>nyauranyongu</i>	カウダマ <i>Kaundama</i>	フソグンバン <i>Fusogunman</i>	兄	ニューラニョング <i>nyauranyongu</i>	—	WW II 以前	—	精霊小屋落成式, 首相訪問
	ガンガソバラ <i>Gangasobara</i>	アンビヤンゲ <i>Anbyange</i>	弟	スイマック <i>semak</i>	スイマック <i>semak</i>	2007年	製作者の家	精霊小屋落成式, 首相訪問, フェスティバル
サンブラック <i>sambrack</i>	ガンガソバラ <i>Gangasobara</i>	クイヌンブク <i>Kuinunbuk</i>	兄	サンブラック <i>sambrack</i>	—	WW II 以前	—	精霊小屋落成式
		バンドウンウンブク <i>Bandununbuk</i>	弟					
サンミヤングアット <i>sammyanguat</i>	ガンガソバラ <i>Gangasobara</i>	カンバンゲマリ <i>Kanbangemari</i>	兄	スイマック <i>semak</i>	スイマック <i>semak</i>	2012年予定	製作者の家	精霊小屋落成式
		トロンクンバン <i>Tolonkunban</i>	弟					
ノグスメ <i>nogusume</i>	カウダマ <i>Kaundama</i>	マインディミ <i>Maindimi</i>	兄	—	—	—	—	精霊小屋落成式
		アワンディミ <i>Awandimi</i>	弟					
サル <i>salu</i>	カウダマ <i>Kaundama</i>	ワンブグマリ <i>Wanbugumari</i>	兄	サル <i>salu</i>	サル <i>salu</i>	2006年	製作者の家	首相訪問, フェスティバル, ゲストハウス落成式
		アンビヤンメ <i>anbyanme</i>	弟					

表2

No.	所有氏族	種類	名前 (固有名)	兄弟関係	下部の動物	素材	全長	全幅	厚さ	色
1	ニャウラニョング <i>nyauranyongu</i>	カウндаマ <i>Kaundama</i>	フソグンバン <i>Fusogunman</i>	兄	鳥(マリガク <i>marigaku</i>)	木(バンジュ <i>bandyu</i>), 樹脂, 粘土, 人毛, 豚の牙, サゴヤシ, 宝貝(マイ <i>mai</i> , スンマ <i>sunma</i>), 巻貝(チャンニャ <i>channya</i> , ウンダングワン <i>undanguwan</i>)	78cm	13cm	11.5cm	黒, 白, 赤, 茶(鳥の部分)
2		ガンガソバラ <i>Gangasobara</i>	アンビヤング <i>Anbyange</i>	弟		木(ガラムート <i>garamut</i>), 樹脂, 粘土, 人毛, 豚の牙, 宝貝(マイ <i>mai</i> , スンマ <i>sunma</i>), 巻貝(ウンダングワン <i>undanguwan</i>)	50cm	9.5cm	10cm	黒, 白, 茶
3	サンブラック <i>sambrack</i>	ガンガソバラ <i>Gangasobara</i>	クイヌンブク <i>Kuinunbuk</i>	兄	犬	木(バンジュ <i>bandyu</i>), 樹脂, 粘土, 人毛, 豚の牙, 宝貝(マイ <i>mai</i> , スンマ <i>sunma</i>), 巻貝(チャンニャ <i>channya</i> , ウンダングワン <i>undanguwan</i>), 二枚貝(ワケ <i>wale</i>)	76cm	14cm	11cm	黒, 白, 茶, 赤(犬の舌)
4			バンドウンブク <i>Bandununbuk</i>	弟	鳥(ヤンバイ <i>yanbai</i>)					
5	サンミヤングアット <i>sammyanguat</i>	ガンガソバラ <i>Gangasobara</i>	カンバンゲマリ <i>Kanbangemari</i>	兄	ワニ	—	85cm	11cm	13.5cm	—
6			トロンクンバン <i>Tolonkunban</i>	弟	白いオウム					
7	ノグスメ <i>nogusume</i>	カウндаマ <i>Kaundama</i>	マインディミ <i>Maindimi</i>	兄	—	—	—	—	—	—
8			アワンディミ <i>Awandimi</i>	弟						
9	サル <i>salu</i>	カウндаマ <i>Kaundama</i>	ワンブグマリ <i>Wanbugumari</i>	兄	サイチョウ	木(バンジュ <i>bandyu</i>), 樹脂, 粘土, 人毛, 豚の牙, 宝貝(マイ <i>mai</i> , スンマ <i>sunma</i>), 巻貝(チャンニャ <i>channya</i> , ウンダングワン <i>undanguwan</i>)	98cm	19cm	14cm	黒, 白, 茶
10			アンビヤンメ <i>anbyanme</i>	弟						



写真①



写真②



写真③

れる (氏族ごとのマイ仮面の詳細は表1, 表2参照)。

3-2. マイ仮面の形態

マイ仮面は形態ごとに3つに区分される。

①カウндаマ・マイ *kaundamamai* (写真①)

「カウндаマ」とは「鼻が長い」を意味する。

②ガンガソバラ・マイ *gangasobaramai* (写真②)

「ガンガソバラ」とは「口を開けた」を意味する。

③バウ・マイ *baumai* (写真③)

「バウ」とは「スティック」を意味する。鼻の付け根から顎にかけて「取手」が伸びる。これは持ち運びしやすいように、観光用に作られたものである。

3-3. マイ仮面の登場機会

マイ仮面は「うれしいときならいつでも」登場する, と誰もが語る。マイ仮面がおもに登場するのは, マイバングウ *maibangu* と呼ばれるシンシンのときで

ある。マイバングウを直訳すればマイの舞踊といった意味である。シンシンの輪には, 女性, 子どもも参加してマイの来訪を祝う。

登場機会すべてにマイ仮面すべてが登場するわけではなく, 使用される仮面は製作, 所有が氏族ごとであったとしても, 結社の中の話し合いにおいてどの氏族の仮面を使用するのが決められる。近年ではこのマイバングウが行われる場面は大きく4つあった。

①精霊小屋の落成式 (マイバングウ *maibangu*)

新しい精霊小屋ができあがったときに, 精霊小屋の柱に宿る祖霊ワガンに祈りを捧げるものとして, マイ仮面を用いた儀式が行なわれる。マイバングウとは, マイ仮面を伴ったシンシンの名前であると共に精霊小

屋の落成式のことも指す。これはかつてマイ仮面が登場したのが、おもに精霊小屋の落成式が中心であったからだと考えられる。

②都市部におけるフェスティバル

ピジン英語で「シンシン *singsing*」と呼ばれるパプアニューギニアにおける舞踊は、観光の見所のひとつとなっている。毎年都市部において行政の援助を受けながら、各地域の踊り手が集まり、各地域特有の歌と踊りを披露する。コロゴ村は、近年では2007年に都市部ウェクまで行き、マイ仮面を用いたシンシンを披露した。

③セピック河流域の村の祝い事

近隣の村で村を越える祝い事があった場合には、コロゴ村の人びとはそれに自主的に参加し、シンシンを披露する。例を挙げれば、2008年の他村におけるゲストハウス落成式の場面である。式の場所は、セピック河の水路と陸路をつなぐボートの乗り継ぎ場パグイ *pagwi* である。コロゴ村の人びとは、そこにゲストハウスができることで、多くの観光客が来ることを期待して祝ったといわれる。

④観光客による支払い

観光客はお金を払うことで、村のシンシンを見学することができる。筆者の場合、250キナ（約1万円）を支払った。観光客の人数にもよるが、一般的には500キナ（約2万円）から1000キナ（約4万円）が相場なようだ。ちなみに筆者は、隣のヤムック村の舞踊を見学した。10人ほどの観光客がおり、合計で500キナだった。

⑤首相訪問

2007年にコロゴ村にソマレ首相が訪れた。その際首相を歓迎するためにマイ仮面のシンシンが行われた。ただしソマレ首相がコロゴ村を訪問したのもそのときが初めてであり、このようなケースにシンシンが

披露されるのは極めて稀である。

4. 考察——マイ仮面の製作時期から

4-1. 素材

マイ仮面に用いられる素材と製作時期との関係に着目した。それを整理したのが表3である。この表から、戦前製作のマイ仮面には小さい宝贝（マイ *mai*）が無数に敷き詰められていて、近年製作されたマイ仮面にはこれが数えられるほどしかないということ、また前者には大きな巻貝（チャンニャ *channya*）がそれぞれ7個あるのに対し、後者にはまったくないということが読み取れる。

こうした要因のひとつに、製作者の経済的背景が考えられる。貝は都市部のマーケットでしか購入できないものであり、現在でもたまに通貨として使用される。ここでは紙面を割くことはできないが、貨幣経済に移行してからの都市部へ向かうための移動費、貝の値段が影響していると考えられる。ただしここでは海洋環境の変化なども併せて考える必要がある。

4-2. 登場機会

マイ仮面の登場機会とその製作時期との関係に着目した。それを整理したのが、表4である。この表からニューラニョング氏族の弟の仮面（近年の製作）が都市部のフェスティバルに参加しているのに対し、同氏族の兄の仮面（戦前製作）がそれに参加していないことがわかる。このことについては「戦前製作の仮面は村の外に持ち出すことはない。それは村外に持ち出す際に壊れる恐れがあるからだ（9月10日16時頃、Alex 50代男性より）」と語られる。これは表をみてもわかるように、ニューラニョング氏族に限らず、戦前製作の仮面をもつ他の氏族の仮面についても該当する。

表3

仮面の製作時期	氏族名・兄弟関係・仮面の名前	物質的側面							
		宝贝(小): <i>mai</i>	宝贝(中): <i>sunma</i>	巻貝(中): <i>undanguwan</i>	巻貝(大): <i>channya</i>	二枚貝(大): <i>wake</i>	髪の毛	豚の牙	サゴヤシ
戦前製作の仮面	サンブラック・兄 クイヌンブック	千個以上	55個程度	2個	7個	1枚	○	○	×
	サンブラック・弟 バンドウンブック	千個以上	65個程度	2個	7個	1枚	○	○	×
	ニューラニョング・兄 フソグンバン	千個以上	40個程度	2個	7個	×	○	○	○
近年製作の仮面	ニューラニョング・弟 アンビヤンゲ	64個程度	51個程度	2個	×	×	○	○	×
	サル・兄 ワンブグマリ	218個程度	90個程度	2個	×	×	×	○	×
	サル・弟 アンビヤンメ	184個程度	89個程度	2個	×	×	×	○	×

表4

仮面の製作時期	氏族名・兄弟関係 ・固有名	儀礼の場所			
		村内		村外	
		精霊小屋落成式	首相訪問	フェスティバル	ゲストハウス落成式
戦前製作の仮面	サンブラック・兄 クイヌンブック	○	×	×	×
	サンブラック・弟 バンドウンウンブック	○	×	×	×
	ニャウラニヨング・兄 フソグンパン	○	○	×	×
近年製作の仮面	ニャウラニヨング・弟 アンビヤンゲ	○	○	○	×
	サル・兄 ワンプグマリ	○	○	○	○
	サル・弟 アンビヤンメ	○	○	○	○

このようなことからマイ仮面の登場機会をみると、戦前製作の仮面と近年製作の仮面は扱われ方に差があるということがわかる。

4-3. 保管方法

マイ仮面の保管方法とその製作時期に着目した。戦前製作のマイ仮面と近年製作のマイ仮面の保管方法は、ともに氏族の長老の家に保管される。しかし保管のされ方が異なっている。

前者の仮面は、すべて第2次世界大戦時に被害を避けるため、地中に穴を掘って埋め、戦後掘り起こしたものがそのままの形で丁寧に保管されている。掘り起こした当時、仮面はすべてひとつずつ布に包まれ、籐のバスケットに入れられ、紐で丁寧にバスケットの口がふさがれていた。

後者の仮面については、特に何か包装するでもなく長老の家にただ掛けられているか、土産物のマイ仮面と同様に並べてあるだけである。

このように保管のされ方を見ても戦前製作のマイ仮面と近年製作のマイ仮面では、扱われ方が異なってい

るのがわかる。

5. まとめ

以上のように、マイ仮面の「素材」、「保管方法」、「登場機会」をみてもわかるように、戦前製作のマイ仮面と近年製作のマイ仮面は扱われ方に差があるということがわかる。しかも戦前製作のマイ仮面の方が時に丁寧に扱われている様子がうかがえる。コロゴ村の人びとは、戦前製作のマイ仮面をチュンブナ・マイ *tumbunamai* と呼び表わして、近年製作のマイ仮面と区別している。こうしたことから、特に祖先から受け継いできたものを見直そうとする動きの一端がここに垣間見れる。

注

1) しかし上位の氏族であるノグスメでは、現在マイ仮面を所有しておらず、その代わり下位の氏族であるサルがこれを補っている。また、サンミヤングアット氏族の仮面は現在製作中である。